

JET 体験論文集

2024-2025



滋賀県国際交流員 Prefectural CIR		甲賀市 ALT Koka City ALTs	
Christopher Brickey	1	Joseph Timbs	20
Diego Alexandre Assis Pinto de Sousa	3	Deven Mahanti	21
		Kelly Reid	22
大津市国際交流員 Otsu City CIR		Samantha Quiroz-Gutierrez	23
Gavin Wurm	5	Shelby Keiko Davis	24
		Sophie Nevel	25
県立学校 ALT Prefectural ALTs			
Alexander Hamilton	7	米原市 ALT Maibara City ALTs	
Ann Cooper	8	26
Cheyenne Moon Price	9	27
Juan Aleman	10	Kaleb Thompson	28
Raquel Gonzales	11	29
		Laura Steavenson	30
東近江市 ALT Higashiomi City ALTs			
Arvin Javier Benamije	12		
Christian De Dios Libunao	13		
Jack Long	14		
Jared Potts	15		
.....	16		
Raina Norwood	17		
Rene Vazquez	18		
Sarah Lathers	19		

また戻ってくる

クリストファー・ブリッキー
滋賀県総合企画部 国際課 勤務
アメリカ フロリダ州出身
1年目国際交流員



甲賀の里 忍術村

挨拶

大学生の時、日本の文化に興味がある友達がたくさんいました。最初は、あまり興味はありませんでしたが、彼らの日本への愛が徐々に私に伝わってきました。卒業した後、7年間はいろいろな企業で働きましたが、やがて日本への関心が高まり、フロリダ州立大学でアジア研究の修士号を取得することにしました。

修士号を取った後、JET プログラムに申し込みました。そして 2016 年に高知市に引っ越し、4 年間英語の教師として働きました。2020 年にコロナの影響でアメリカに帰り、在マイアミ日本総領事館で JET プログラムコーディネーターとして働き始めました。総領事館で日本語を磨いた後、CIR として JET プログラムに再応募することを決めました。滋賀の生活はまだまだ始まったばかりですが、さらに長く滞在できることを楽しみにしています。

翻訳通訳

滋賀には多くの姉妹都市があり、滋賀県と英語圏の国々との間でコミュニケーションをスムーズに進めるお手伝いをしています。これは、手紙、スピーチ、及び両国間の相談訪問という形で行っています。一番印象に残っている思い出は、4月に知事と一緒に大阪・関西万博を訪れ、インドネシアパビリオンで通訳したことです。

出前講座

仕事は主に前講座です。ほとんどは小学校ですが、時々中学や高校、さらには大学を訪問することもあります。私は自分の故郷であるフロリダやアメリカの特徴について紹介し

たり、両国の違いと多文化主義の重要性について話したりしています。大好きなのは養護学校での出前講座です。なぜなら、子供たちはいつも元気で、反応が素晴らしいのです。

その他

時々同僚と一緒に面白い旅行に行くことがあります。その目的は、SNSのためだったり、滋賀についてもっと学ぶためだったりします。一番の思い出は、滋賀の甲賀の里の忍者村への旅行でした。また私達は、滋賀県国際協会と連携して、子供たちに災害対策と安全に関することについて教えたりもしています。

最後の言葉

去年は本当に忙しい一年でしたが、未来に何が起こるかがとても楽しみです。そして、滋賀を第二の故郷と呼べるようになることを心から楽しみにしています。

ジエゴ・アレシャンドレ・アシス・ピント・デ・ソウザ
滋賀県総合企画部 国際課 勤務
ブラジル リオ・デ・ジャネイロ出身
2年目国際交流員



あいさつ

ブラジルで大学を卒業した後、就職活動を始めましたが、やはりブラジルでは日本語と密接に関わる仕事は比較的少ないです。いろいろ悩んでいたときに、留学時代の友達に相談したところ、「JETプログラムって聞いたことある？ 私はいま JET を通して日本で働いているのだけど、ジエゴに合っていると思うよ。やってみたらどう？」と言われました。それから日本語能力試験に合格するために必死に勉強し、幸いにも試験と JET の両方に合格することができました。

2019年に1年間、東京に留学していましたが、滋賀での仕事は、翻訳、通訳、多文化共生に深く関わる内容だったため、日本に来るのは不安であると同時に、とても楽しみにしていました。子どものころから日本のアニメ、ゲーム、歴史などが大好きだったので、日本で学んだことを活かして、日本社会や外国にルーツを持つ方々のための役に立つことは、言葉では言い表せないほどの誇りと喜びを感じました。

正直に言うと、任用団体が決まる前は「滋賀県」という名前をあまり聞いたことがありませんでしたが、県に着いてからすぐに、美しい景色、心を癒す自然、そして県民の優しさに惹かれました。仕事の面でもさまざまな印象的な経験がありましたが、一番記憶に残っているのは、滋賀県とリオグランデドスール州が姉妹都市であるため行われた令和6年の知事会談で通訳を務めさせていただいたことです。私はほんの小さな歯車かもしれませんが、両方の大好きな国の交流に少しでも貢献できたと思っており、一生の宝物になる思い出となりました。

翻訳・通訳

英語に関する翻訳依頼と比べると、ポルトガル語に関する翻訳・通訳の依頼は少ないです。一方で、県内にはブラジル人が約9,000人います。そのため、たとえば病院の資料をポルトガル語に翻訳すると、「近いうちに、困っている誰かの役に立てる」と強く実感でき、ブラジル人コミュニティとのつながりを感じることができます。同様に、ブラジル人学校で通訳を務めた際には、行政レベルの話だけでなく、人と人との絆を結ぶお手伝いできたことを

とても貴重な機会だったと感じました。

今はまだ未熟だと感じることもありますが、勉強と経験の積み重ねを怠らず、将来はベテランとして胸を張れるよう、全力を尽くしたいと思います。

出前講座

国際交流員になる前、ブラジルでおよそ 14 年間英語の教師として働いていました。そのため、学校訪問の際の自分はまさに「水を得た魚」のようでした。

アメリカやヨーロッパと比べると、ブラジルの文化はサンバやサッカー以外あまり知られていないように思います。だからこそ、滋賀県の児童や県民の方々に、ブラジルの料理、学校、遊び、あいさつなどを紹介することは、とても貴重な機会だと思えました。

将来、偏見や差別のない社会を築くためには、幼少期から協力・共生・違いに対するオープンな考え方を育むことが欠かせないと感じており、その一助となれば嬉しいです。

その他

日常生活においても、多くの新しい経験をしました。ブラジルは観光地としては人気のある国ですが、今は実際に日本から移住する人は少ないと思います。ですので、英語が話せるとはいえ、日本で初めて本当の意味で「国際的なコミュニティ」を築くことができました。

日本人の友達はもちろん、アメリカ人、イタリア人、韓国人、台湾人、インド人など、数えきれないほど多くの国の人々と出会い、共生と協力の大切さ、そして多文化の楽しさをプライベートの場でも感じながら暮らしています。

最後に

今年の 4 月で国際交流員 2 年目を迎えました。あっという間の 1 年間で、さまざまな経験を重ねることができました。令和 7 年は滋賀県とリオ・グランデ・ド・スール州の姉妹提携 45 周年という節目の年であり、滋賀県庁の一員として県州交流の発展に貢献できる唯一無二の機会でもあります。

今、日本での生活がとても楽しく、幸せに感じています。これからも新しいことにどんどん挑戦し、ひとりの人間としても、国際交流員としても、滋賀県の皆さんと一緒に笑顔で前向きに進んでいきたいと思っています。

大津市役所の国際交流員

ガビン・ワーム
滋賀県大津市 多文化共生・国際室 勤務
アメリカ テキサス州出身
3年目国際交流員



あいさつ

大津市の国際交流員として働き始めて、もうすぐ3年になります。日本とのつながりは高校で日本語を学び始めた頃からで、学校の修学旅行で初めて日本を訪れたことも大きなきっかけでした。大学3年生のときに日本語を専攻し、いつか日本で働くことを目指してきました。そして、JETプログラムに合格し、2022年の10月に大津に来て、市役所での仕事を始めました。

翻訳・通訳

多くの国際交流員と同様に、私の主な業務は翻訳と通訳です。翻訳は、大津市在住の外国人向けの行政手続や観光案内の英訳を中心に、姉妹都市とのやり取りや市長の親書など幅広く対応しています。仕事をしているときは、常に何らかの翻訳に取り組んでいます。

通訳は私にとって最も難しい業務ですが、やりがいも感じています。市民向けの通訳では、転入手続、国保・年金窓口、保育園の説明会などでサポートを行ってきました。イベント通訳は年に数回ですが、スピーチや挨拶の逐次通訳、関係者の質疑応答や歓談時の通訳など、重要な場面を任されることが多いです。



使節団受入時の通訳

姉妹都市との交流

大津市の国際交流員にとって姉妹都市との交流は大事な業務です。大津市は様々な都市と繋がっていて、アメリカ、ドイツ、スイス、中国、韓国にある合計5つの都市と姉妹友好都市の提携を結んでいます。2022年からはドイツ、韓国、アメリカの姉妹都市からの訪問団を受け入れてきました。大津市を訪れる際は、市の国際交流員として、訪問に関連する書類の翻訳、市内の観光施設の案内、市長との表敬訪問時の通訳などを任せられます。

国際文化理解教室

国際文化理解教室は大津市の国際交流員が行う業務の中で、市民レベルでの異文化交流を促進することができる重要な仕事です。教室の目的は英語を教えるのではなく文化を教えることで、保育園から高校までに行って異文化交流の講座を行う事業です。最初は子どもの接し方が分からず戸惑いましたが、経験を重ねるうちに楽しめるようになりました。現在は主に幼稚園や保育園でプレゼンやクイズを通してアメリカの学校や休日等について教えています。



幼稚園での国際文化理解教室

SNS/観光 PR

海外向けの SNS 活動にも取り組んでいます。2023 年の 1 月より、市の英語版フェイスブック「Lake Capital Otsu」を正式に再開しました。このアカウントはもともと私の前任者が始めた企画で、コロナ禍の影響もあって数年間投稿が止まっていたのですが、現在は月に 1 回のペースで市の観光施設などを紹介しています。



大津の観光 PR 用ロールアップバナー

仕事の実績

市役所で働く中で、これまでいくつかの企画に関わることができ、それらに大きな誇りを感じています。観光振興課にいたときには、市の新しい英語版観光パンフレットを作成したほか、以前所属していた MICE 推進室のウェブサイトの英語版も制作しました。また、大津市を訪れる観光客向けの多言語チラシのデザインや、イベントなどで市を PR するためのロールアップバナー 3 種類の作成にも携わりました。

終わりに

この 3 年間はあっという間でしたが、信じられないほど充実していて、かけがえのない思い出がたくさんできました。日本各地を旅し、想像もしなかったような体験を重ね、自分自身も大きく成長することができました。もうすぐ JET プログラム 4 年目を迎えるにあたり、市役所での仕事を引き続き頑張るとともに、これからの新しい出会いや経験を楽しみにしています。

22 Months Later

Alexander Hamilton (Shiga Prefectural Zeze High School)

When I received the long-awaited placement email in 2023, I had never heard of Shiga. I immediately started gathering whatever information I could from google. It seemed strange that a place so central to Japan, so close to many major cities, could be so relatively unknown. Nevertheless, I was excited; every account I read about life in Shiga was glowingly positive, and being close to Kyoto seemed like a positive.

Fast-forward two years, and Shiga is how I think of Japan. Lake Biwa and the quiet towns on its shores have replaced the images of bustling cities and Mt. Fuji, which used to make up my overall image of the country. I have had some incredible experiences all over Japan, from a visit to Himeji Castle to a music festival in Kyushu, but the memories that will stick with me the longest will be the ones that take place here in Shiga. Playing guitar with my students during the cultural festival, summer barbeques at Omi-Maiko, hiking up Mt. Hiei, and exploring the ceramics shops in Shigaraki, all stand out as experiences that have shaped my time in Japan so far.

In last year's essay I wrote about how quickly my first year had flown by, and my second year has kept up that pace. At that time I was worried that my time here would fly by without making the most of it, but I'm not so worried about that now. I have done a lot between then and now, and I'm confident that by the time I write next year's essay I will have created even more memories just as important as the ones I've gained so far.



topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

22カ月後

アレクサンダー・ハミルトン(滋賀県立膳所高等学校)

2023年に待望の配属通知メールを受け取ったとき、私は滋賀のことを知らなかった。すぐにグーグルからできる限りの情報を集め始めた。日本の中心地であり、多くの主要都市に近い場所が、これほどまでに知られていないのは不思議に思えた。滋賀での生活について書かれた記事はどれも好意的なものばかりだったし、京都に近いこともプラスに思えたからだ。

それから2年が経ち、滋賀は私にとって日本のイメージとなった。琵琶湖とその湖畔の静かな町は、私の日本に対するイメージの大部分を占めていた賑やかな都市と富士山に取って代わった。姫路城を訪れたり、九州の音楽祭に参加したりと、日本全国で素晴らしい経験をしたが、私の心に最も長く残る思い出は、ここ滋賀での思い出だろう。文化祭で生徒たちとギターを弾いたこと、近江舞子での夏のバーベキュー、比叡山ハイキング、信楽の陶器店巡りなど、すべてが私の日本滞在を形作ってきた経験として際立っている。

昨年のエッセイで、1年目はあっという間だったと書いたが、2年目もそのペースを維持している。当時は、日本での時間を有意義に過ごすことなく、あっという間に過ぎてしまうのではないかと心配していたが、今はその心配はない。そして来年のエッセイを書く頃には、このエッセイと同じくらい大切な思い出をたくさん作っていると確信している。

Teaching English...in English!

Ann Cooper (Hikone Higashi High School)

When I found out I'd be teaching at a high school on JET again, I wondered how it would be since there can be such a range when it comes to how schools are. My experience this time is completely different than before. For one, classes are completely in English. In addition, I work with one native English teacher rather than multiple JTEs. She actually spent part of her life growing up across the river border from where I'm from in the States. I never thought I'd work in Japan with someone that had a similar experience like that, so it was really surprising once I started working here.

Although these were things I wasn't used to, I'm glad that I've been able to experience teaching at a school with this type of setup. Working with only one teacher rather than many means that we can both focus on planning together and make classes more cohesive. Not only that, but this means that other JTEs have more time to focus on their own classes as they don't need to join ours. And, we're both available if they need help or want a native English speaker's perspective.

Of course, I think it's also helpful for students! They get used to hearing not only one but two native teachers in class, and because they are forced to engage in English it helps them become more comfortable with it. All of our materials are in English, too, which helps with immersion.

I'm really grateful I've been able to have this kind of experience, and I never thought that it would happen in Shiga as it's very rare. I can honestly say that I would recommend this kind of setup to other schools. I hope that it will become more common in the future, because it's a win-win for everyone!



Topic:

Teaching English

授業実践について

英語の授業を、、、英語で！

アン クーパー (滋賀県立彦根東高等学校)

JETプログラムにおいて再び高校で教えることになった時、学校によって状況が異なるので、どうなるか心配でした。今回の経験は以前とは全く異なります。授業は全て英語で行われ、複数のJTEではなく1人のネイティブ英語教師と働いています。彼女は、私がアメリカで育った場所から、国境となる川を挟んだ向こう側で育ちました。日本でそのような似た経験を持つ人と働くとは思っていませんでしたので、ここでの仕事が始まった時本当に驚きました。

これらのことは私にとって慣れないことでしたが、このような体制の学校で教える経験をできたことは本当に嬉しく思っています。複数の教師ではなく1人の教師と働くことで、私たちは共に授業計画に集中でき、授業をより一貫性のあるものにできます。さらに、他のJTEは私たちの授業に参加する必要がないため、自分の授業に集中する時間が増えます。また、彼らが助けを必要としたり、ネイティブ英語話者の視点が欲しい場合、私たちはいつでも対応できます。

もちろん、生徒にとっても有益だと思います！生徒は授業で1人ではなく2人のネイティブ教師の声を聞き、また、英語でコミュニケーションを取ることを強制されるため、より英語に慣れることができます。さらに私たちの教材もすべて英語で作成されており、これによって英語のイマージョン教育が推進できます。

このような経験をできたことに本当に感謝しています。とても珍しいことなので、滋賀県でこのようなことが起こるとは思ってもみませんでした。他の学校にもこの仕組みを推薦したいと心から思っています。将来、このような仕組みがより一般的になることを願っています。なぜなら、これは誰もが得をする win-win の状況だからです！

In the Present Tense

Cheyenne Moon Price (Shiga Prefectural Board of Education)

Choosing just one piece of culture to write about felt daunting until I thought about the Japanese idiom my friend mentioned once, *もののあわれ*, “the impermanence of all things.” It describes the inevitability of change, transience, and life itself. The beauty of a single moment. It is **because** it will end, that it is beautiful. She told me it was difficult to explain, but that many people imagine cherry blossoms, falling. When I asked others about its meaning, most agreed that it is embodied in the way of life here. I wondered about the need to work so hard in a culture that values impermanence. I don’t think I’ve found an answer. But I have seen it in those around me; like the kind ojii-chan who greets me by tipping his baseball cap, or the girl who stops to smell the orange, osmanthus flowers in the fall.

My time on JET is rapidly approaching its end—strange, considering I could have sworn I just arrived a few days ago. I was warned about the variety of emotions that would ensue as my departure day approached. Grief, excitement, confusion, and everything in between.

But I’ve also enjoyed the summer walk to a visit school in the countryside, or the convenience store ladies who always smile in the morning as I grab my usual cup of coffee. There’s so much I could say about Japan. For now, I’m simply enjoying the day-to-day moments.

After all, what is here today, might be gone tomorrow.



topic:

Japanese Culture

日本の文化について

現在形を生きる

プライス シャイエン ムーン (滋賀県教育委員会)

文化について一つだけ選んで書くというのは、最初とても難しく感じられました。でも、友人が以前話してくれた「もののあわれ」という日本語の表現を思い出したのです。「すべてのものは移ろいゆく」という意味です。それは、変化の必然性や儚さ、そして人生そのものを表しています。一瞬の美しさ。終わりがあるからこそ、美しいのです。説明するのは難しいと彼女は言っていました。多くの人が桜の花びらが散る様子を思い浮かべるそうです。

他の人たちにも意味を尋ねてみると、多くの人が「この国の生き方そのものに体現されている」と言っていました。私は、無常を大切にす文化の中で、なぜこんなにも懸命に働く必要があるのだろうと不思議に思いました。その答えはまだ見つかっていないと思います。しかし、周囲の人たちの姿からそれを感じることがあります。例えば、いつも野球帽に軽く触れて挨拶してくれる優しいおじいちゃんや、秋になると金木犀の香りをかぐために足を止める人のように。

JETプログラムでの時間は、もうすぐ終わろうとしています。つい数日前に来たばかりだと思っていたのに、不思議な感覚です。出発が近づくにつれて、さまざまな感情が押し寄せると聞いていました。悲しみ、興奮、戸惑い、そしてその間にあるあらゆる感情。でも、田舎の学校へ歩いて訪れた夏の日や、朝いつものコーヒーを手に取ると笑顔で迎えてくれるコンビニの店員さんたちなどを楽しんできました。日本について語りたことはたくさんあります。けれど今は、ただ日常の一瞬一瞬を味わっています。

なにしろ、今日ここにあるものは、明日にはもうないかもしれないのですから。

Paying It Forward

Juan Aleman (Maibara Senior High School)

Ehhh?!! You want to be a doctor? Why are you teaching English?

That's the reaction I often get from both students and teachers when I share my dream. And it's true—I want to become a doctor. But teaching English is also a meaningful goal of mine. Growing up, English was my second language, so I can relate to my students' struggles. English enabled me to explore my intellectual curiosities about the natural world, and I wish to pay it forward to meaningfully impact at least one student.

That said, the first month in the classroom was difficult. I struggled to adapt my lessons and speech so that students could follow. In fact, my first lesson was very stale: too much talking, not enough interactions.

Little by little, I adjusted my approach. Solo work became pair work. Activities turned into creative projects. We tackled academic topics like endangered species and how to compromise. Along the way, something beautiful happened—students began to share their own opinions. Silent classrooms came to life. Disinterested faces turned engaged.

English became accessible to them. And with that, the opportunity to create fun, engaging lessons. I have fond memories of students' laughter as they blue-shelled each other in our Mario Kart lesson and slapping proverb cards with glee during our English Proverb Karuta game.

They give me strength every day to do my best. Lesson planning is difficult, and will never be easy for me. But their joy, their laughter makes paying it forward worthwhile and deeply rewarding.



topic:

Teaching English

授業実践について

ペイ・フォワード

フアン アレマン (滋賀県立米原高等学校)

えっ?! 医者になりたいの? どうして英語を教えているの?

私が自分の夢を話すと、生徒や先生たちからよくこんな反応をもらいます。そして実際、私は医者になりたいと思っています。でも、英語を教えることも私にとって大切な目標です。私は英語を第二言語として学んできたので、生徒たちの苦勞に共感できます。英語を学ぶことで、私は自然界についての知的好奇心を広げることができました。だからこそ、今度は私が誰か一人でも生徒の人生に良い影響を与えたいと思っています。

とはいえ、教え始めた最初の数ヶ月はとても大変でした。生徒たちが理解できるように授業や話し方を工夫するのに苦勞しました。実際、最初の授業はとても堅苦しくて、一方的に話すばかりで、生徒たちが参加する時間はほとんどありませんでした。

少しずつ私はやり方を変えていきました。一人でやる活動をペアワークにし、課題は創造的なプロジェクトに変わりました。絶滅危惧種や折り合いのつけ方など、学問的なテーマにも一緒に取り組みました。そんな中で、素敵な変化が起こりました。生徒たちが自分の意見を話すようになったのです。静かだった教室が生き生きとし、興味のなさそうだった表情がどんどん前向きに変わっていきました。

英語が生徒たちにとって「手の届くもの」になったのです。そしてそこから、楽しくて夢中になれる授業を作るチャンスが広がりました。マリオカートの授業で生徒たちが青い甲羅を投げ合いながら大笑いしていたことや、英語のことわざカルタで楽しそうにカードを取り合っていたことは、私の大切な思い出です。

生徒たちは毎日、私に頑張る力を与えてくれます。授業の準備は今でも難しく、きっとこれからも簡単にはならないと思います。でも、生徒たちの笑顔や笑い声が、誰かに与えた恩を次の世代に渡していくことを、心から価値のある、素晴らしいことだと感じさせてくれるのです。

Preparation for Life in Shiga, Japan

Raquel Gonzales (Moriyama Junior & Senior High School)

Before coming to Shiga, no number of Google searches could have prepared me for the frustrations and exhilaration of living and working in Japan. But that didn't stop me from trying to sap answers from online comments from 10 years ago. In actuality, the questions I would have in my first few months on JET would be impossible for me to predict:

Do I brush my teeth in the restroom or the teacher room? Is everyone going to notice how long I brush my teeth for? ... Is it unfair that I always give the worse lesson to the class in first period? ... Wait, why is everyone still wearing long sleeves? ... Am I tired because of culture shock or because I just taught five classes? ... Why do my students laugh when I use Kansai dialect?

When I arrived here, learning how to be a young professional and live in a new country was like wading through molasses. For a long time, every moment of the day was difficult. No single action came naturally. Even the fundamentals of life were challenged—but every day I'm learning and growing. Slowly, the molasses has become something a little easier.

If I had the option to reach out to myself from a year ago to offer advice, I don't think I would. The spectacular nature of my experience in Shiga would be diminished without the frustrations and errors that I made. It has made the good days even more amazing. I'm all the happier for it!



topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

滋賀県での生活

ゴンザレス ラケル (滋賀県立守山中学校・高等学校)

滋賀に来る前、どんなにグーグル検索をしても、日本での生活と仕事のフラストレーションと興奮を想像することはできなかった。にも関わらず、10年前のネット上のコメントから日本の生活についての答えを導き出そうとし続けた。実際のところ、JETに参加した最初の数ヶ月で私が抱くであろう疑問は、私には予測不可能なものだった。

「トイレで歯を磨くのか、それとも職員室で磨くのか。私がどれだけ長い時間歯を磨いているか、みんなに気づかれるかしら?」「いつも最初の授業がうまくいかないのは、生徒にとって不公平なのではないか?」「待って、どうしてみんなまだ長袖を着ているの?」「私が疲れているのはカルチャーショックのせい?それとも5クラスで授業をしたから?」「なぜ関西弁を使うと生徒が笑うのか?」

私がこの国に到着してから、若くして一人前の教師になるために、そして新しい国での生活について学ぶことは、まるで泥の中を進むような困難なものだった。長い間、一日の一瞬一瞬が大変だった。自然にできることは一つもなかった。しかし、私は毎日学び、成長している。状況は少しずつ明るなものとなってきている。

もし今、1年前の自分に手を差し伸べてアドバイスができるとしても、私はそうはしないとと思う。滋賀での様々な経験は、自分が経験した挫折や失敗がなければ、その素晴らしさが半減してしまうだろうから。失敗や挫折のおかげで、日本での楽しい日々が、更に素晴らしいものになったのだ。私はそれだけで幸せなのだ!

Echoes of a Train Ride

Arvin Javier Benamije (Higashiomi City Funaoka Junior High School)

“My best memory with you was when we talked a lot on the train together. I was nervous at first, but our conversation was very enjoyable. Thank you, and please keep doing your best.”

On that one cold morning in early March, I found this letter on my desk. It was from one of my former third-year students. The message was simple but held a special place in my heart. I never thought that one casual train ride would leave a lasting impression.

I have always believed that true foreign language learning transcends the four corners of the classroom. It happens with simple daily interactions— a quick chat before the class starts, a random question in the hallway, or even just a casual talk at a convenience store.

Back in the Philippines, I taught both Filipinos and a small number of Indian students. There, I was accustomed to language learning that was often direct, interactive, and heavily influenced by Western teaching methods. In contrast, I have seen that the classroom dynamic in Japan is more reserved and nuanced. At first, I got frustrated when I asked a simple question and was met by a deafening silence in class. It was uncomfortable but gradually, those silent moments gave me significant opportunities to step back, observe, and reflect. Furthermore, my JTEs have been kind and generous enough to offer constructive feedback to enhance our team teaching styles and techniques.

My time in Japan has shifted my perspective on English language learning. I have learned when to speak and when to listen. As my journey continues, I look forward to creating more opportunities to help my learners and colleagues strengthen their communication skills— inside and outside the school. After all, language is all about forging meaningful connections seamlessly.



topic:

Teaching English

授業実践について

電車の旅のこだま

アービン ハビエ バナミエ (東近江市立船岡中学校)

「あなたとの一番の思い出は、一緒に電車の中でたくさん話せたことです。最初は緊張していましたが、会話はとても楽しかったです。ありがとう。そして、これからも頑張ってください。」

その三月の寒い朝、私は机の上に置かれた一通の手紙を見つけました。それは、以前の三年生の生徒からのものでした。短いメッセージでしたが、私の心の中で特別な場所を占めています。まさか、あの何気ない電車でのやりとりが、こんなに深い印象を残すとは思っていませんでした。

私は、真の外国語学習は教室の四隅を越えて広がるものだとは常に信じています。それは、授業前のちょっとした会話や、廊下でのふとした質問、あるいはコンビニでのカジュアルなやりとりの中にあります。

フィリピンでは、フィリピン人と少人数のインド人学生に英語を教えた経験があります。そこでは、学習スタイルはより直接的で、対話的であり、西洋的な教育方法の影響を強く受けていると感じていました。一方、日本の教室では、より控えめで繊細な雰囲気があると気づきました。最初の頃、簡単な質問をしても返ってくるのは沈黙ばかりで、戸惑いとフラストレーションを感じました。しかし、その静けさの中にこそ、私が一歩引いて観察し、自らの指導方法やコミュニケーションスタイルを見直す大きな機会があったのです。さらに、JTEの先生方は親切かつ寛大に建設的なフィードバックをくださり、チームティーチングの改善に協力していただきました。

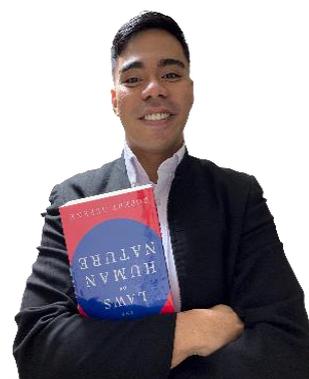
日本での時間は、英語学習に対する私の考え方を大きく変えてくれました。話すべき時と聞くべき時を学び、文化的な感受性も深まりました。これからも、学習者や同僚の方々在校内外でのコミュニケーション能力をさらに伸ばせるような機会を作っていきたいと考えています。なぜなら、言語とは人と人との間に意味あるつながりを生み出すためのものだからです。

From "Eigo?" to "Let's Go!"

Christian De Dios Libunao (Higashiomi City Choo Junior High School)

The title of this article, *From "Eigo?" to "Let's Go!"*, captures the journey I have witnessed every day in my junior high school classroom here in rural Japan. Many students begin with a hesitant, questioning attitude toward English, often asking, *"Eigo?"*, uncertain and shy. But through encouragement, engaging lessons, and opportunities to express themselves, they gradually move from sitting on the fence to feeling confident and excited, ready to say, *"Let's go!"*.

When I first arrived as a JET Programme ALT, I expected to focus mainly on teaching grammar and vocabulary. What surprised me was how much of my work became about helping students find their own voices and identities through English. Many of my students memorized English phrases for exams, but rarely saw it as a language they could truly use to express who they are. To bridge this gap, I collaborated with my Japanese teachers to create lessons that brought students' personalities and interests to the forefront. Whether writing about favorite foods, sharing weekend stories, or performing skits, students started using English to say things that mattered to them personally. This transformation, from hesitant *"Eigo?"* to enthusiastic *"Let's go!"*, didn't happen overnight. But little by little, I saw students raise their hands more, stay after class to chat, and share dreams and jokes in English. It became clear that learning English was more than just an academic subject; it was a pathway for self-expression and courage. Teaching here has reminded me that language learning is not just about fluency or test scores. It is about helping students dare to be seen and heard. When they say *"Let's go!"* in English, they are stepping into new worlds and new versions of themselves, and as teachers, we have the privilege of cheering them on every step of the way.



topic:

Teaching English

授業実践について

「英語？」から「レッツゴー！」へ

クリスチャン デイ ディーオース リブナオ (東近江市立朝桜中学校)

この記事のタイトル「*From 'Eigo?' to 'Let's Go!'* (「英語？」から「レッツゴー！」へ)」は、私が日本の田舎の中学校の教室で毎日目にしていく生徒たちの成長の過程を表しています。多くの生徒は、最初は英語に対してためらい、不安そうに「英語？」と問いかけるような態度で接します。しかし、励ましや楽しい授業、自己表現の機会を通じて、次第に自信とやる気を持って「レッツゴー！」と言えるようになっていきます。

私がJETプログラムのALTとして初めて赴任したとき、文法や語彙を教えることに主に注力すると思っていました。しかし、実際には生徒たちが英語を通して自分自身の声やアイデンティティを見つける手助けをすることが多いことに気づきました。多くの生徒は試験のために英語のフレーズを暗記していましたが、それを自分の思いや考えを表現するための言語とは考えていませんでした。このギャップを埋めるために、私は日本人教師と協力して、生徒たちの個性や興味を授業に取り入れる工夫をしました。好きな食べ物について書いたり、週末の出来事を話したり、劇をしたりする中で、生徒たちは自分にとって大切なことを英語で表現するようになりました。

この変化は一夜にして起きたわけではありません。しかし、少しずつ生徒たちは手を挙げる回数が増え、放課後に残って英語で夢や冗談を話すようになりました。英語学習は単なる学問ではなく、自己表現と勇気の道であることが明らかになりました。ここでの教育経験は、言語学習は流暢さや試験の点数だけではないと教えてくれました。大切なのは、生徒たちが見られ、聞かれる勇気を持つことです。彼らが英語で「レッツゴー！」と言うとき、新しい世界や新しい自分へと踏み出しているのです。私たち教師は、その一步一步を応援する特権を持っています。

Experiencing Japanese Poetry in Shiga

Long Jack (Higashiomi City Notogawa Junior High School)

One aspect of Japanese culture that I have found a growing interest in recently is Japanese poetry, especially the Hyakunin Isshu. I had known about the Hyakunin Isshu and about the game of karuta for a long time, but it wasn't until recently that I began to read and study the poems myself. I quickly fell in love with tanka poetry and found a deep appreciation for how tanka poets are able to put so much meaning and beauty into a poem with so few words. Ever since then, I have been trying to memorize the poems, so that I can play karuta. Luckily for me, living in Shiga means that I am close to Omi Jingu, where the national championship tournament for karuta is held every year. I have visited Omi Jingu in the past, and I thought it was very beautiful, but that was before I had read the Hyakunin Isshu. Now that I know more about the Hyakunin Isshu and tanka poetry, I would like to visit Omi Jingu again, as I think I could appreciate it more deeply now. Also, two locations in Shiga are mentioned in the Hyakunin Isshu, Mount Ibuki and Osaka no Seki. I have not visited these two locations yet, but I have plans to visit them in the future. I think that it is so cool that I can personally experience the inspiration for some of Japan's most famous poems right here in Shiga prefecture. I am very grateful for the opportunity, and I greatly enjoy learning more about Japanese poetry and Shiga prefecture every day.



topic:

Japanese Culture

日本の文化について

滋賀における和歌の経験

ロング ジャック (東近江市立能登川中学校)

最近私がますます関心を持つようになっている日本文化の一面は、和歌、とりわけ百人一首です。私は長年、百人一首やかるた取りについて知っていましたが、自分自身で詩を読んだり勉強したりするようになったのは最近のことです。私は、すぐに短歌の詩人に恋に落ちました。そして、私は、いかに短歌が、あれほどまでもたくさんの意味と美を、あれほどまでもわずかな言葉しかもたない詩にこめることができるのか、といった深い真価を見出したのです。その時以来、私はかるたができるようにと、詩を暗記しようと試みています。幸いなことに、滋賀県に住んでいるということは、私が近江神宮の近くにいるということなのですが、そこでは毎年、全国競技かるた大会が開催されます。私はかつて近江神宮を訪ねたことがあり、そこは大変美しいと思いました。しかし、それは百人一首を読む以前のことでした。百人一首や短歌についてより多くを知った今、私は再び近江神宮を訪ねたいと思っています。今では、より深くそこを鑑賞することができるのではないかと考えているからです。さらに、百人一首の中には滋賀県の2つの場所が詠まれています。それらは、伊吹山と逢坂の関です。私は、まだこれらの2か所を訪ねたことがありませんが、今後、訪問する予定です。まさにここ滋賀県で、日本のもっとも有名な詩のいくつかを生み出した靈感を、自分自身で直接経験することができることはとても素晴らしい、と私は考えています。私は、この機会にとっても感謝をしていて、毎日、和歌や滋賀県についてより多くのことを学ぶことを大いに楽しんでます。

A Whole New World

Jared Potts (Higashiomi City Eigenji Junior High School)

From the moment I arrived in Shiga, I knew I was going to have a wonderful new experience. My life both in and out of work is so different from anything I have ever experienced before. Because of that, a lot of these last ten months have been adapting and changing to fit this environment. For one thing, due to the less frequent busses and trains, I had to learn to become more punctual for things. I have also been able to walk to almost any place I need to go on a regular basis, such as a supermarket or Costco, which is something that would be quite difficult in Florida.

It is also been really interesting to have so many famous or interesting places to visit. Within the first two weeks of arriving, I traveled to the Lake Biwa Museum in order to learn more about one of the most famous landmarks my new prefecture had to offer. While it was an extremely hot day, I still managed to have a lot of fun while becoming more familiar with Lake Biwa. Another landmark that I traveled to was Hachimanbori. I went during the fall, and was astounded by the wonderful scenery. There was also a nice cafe there that had a dog as part of their welcome crew, which was a fun experience.

There are still many wonderful places in Shiga for me to go to, and a lot more to learn and see while I am here. I am looking forward to encounter what awaits me in the near future while I live in Shiga.



topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

全く新しい世界

ジャレット ポッツ (東近江市立永源寺中学校)

滋賀県に着いたときから、私はこれから素晴らしい体験をすることを予感していました。公私共に、今まで経験したものとは全然違います。そのため、この10ヶ月間の大半は、自分が変化し、この環境に適応するための期間でした。一つの例は、東近江市ではバスや電車の本数が以前住んでいた場所より少ないので、時間を守ることを学ばなければなりませんでした。他にも、日常的に必要なコストコやスーパーなど、行きたい場所へ歩いていくことができます。フロリダではかなり難しいことです。

近くに訪れることができる有名で興味深い場所が多くあるのも、とても楽しいです。到着してから2週間で、この県の名所について学ぶため、琵琶湖博物館に行きました。その日は猛暑日でしたが、琵琶湖について学ぶのはとても楽しかったです。滋賀県で他に気に入った場所は、八幡堀です。秋のうちに訪れて、綺麗な景色を見ることができました。八幡堀には看板犬がいる喫茶店にも行きました。珍しくて面白かったです。

滋賀県で行くべき素敵な場所は、まだたくさん残っています。しかも、学ぶことや見ることも多いです。滋賀県に住んでいる間に、どんなことに出会えるのか、とても楽しみです。

Brawl Stars

, (Higashiomi City Aito Junior High School)

I came to Japan with the expectation that everything would be completely different. Everybody said that would be the case. When thinking about a place that is on the other side of the planet, it can be difficult to imagine it any other way. Though I have certainly noticed a number of differences since getting here, I've realized that similarities are also numerous.

When it was first time for me to introduce myself to the students in class, I had prepared a presentation on myself, my country, and my interests. As much as I had tried to make it interesting, it felt like there was no way to know if the students would enjoy it until I presented it to them. While presenting, there were some topics, such as football, that they weren't familiar with, but there were also others that were met with very strong positive reactions.

One of these discovered points of commonality was Brawl Stars. Brawl Stars is a mobile game that is pretty popular in America, and it seems to have quite a bit of fans here in Japan too. Interestingly, it is neither an American game nor a Japanese one. Brawl Stars is from Finland, and yet it is connecting people from these other distant countries. I think this shows the interconnected nature of the world we live in today.

Compared to earlier times, we have much more in common with people from other countries. Brawl Stars is only one example. Starbucks, tennis, Rock Paper Scissors—the list could be never-ending. People here in Japan, in America, and anywhere else are all human. No matter how different we may be culturally, we can always find things in common if we only try to look for them.

topic:

Japanese Culture

日本の文化について

ブロスタ

(東近江市立愛東中学校)

周囲のみんなが言っているように、日本はアメリカとすべてのものが全く違うという期待を持ってここに来ました。地球の反対にある国のことを考えると、その違いを想像するのが難しいと思うかもしれません。しかし、日本に来てからいくつかの違いに気づく一方で、共通点もいっぱいあるとわかりました。

生徒に授業で初めて自己紹介をする時、自分自身のことや母国について、いろいろなトピックを用意しました。精一杯に面白くしたつもりでしたが、それを見せるまで生徒が楽しむかどうか不安に感じていました。しかし、いざ始めると、生徒になじみのないトピックでもすごく強い反応を見せました。

私が見つけた共通点にブロスタがあります。ブロスタはアメリカで人気のあるスマホゲームで、日本でもファンがかなり多いらしいです。しかし、それはアメリカ製でも日本製でもありません。ブロスタはフィンランド製であるのに、これらの遠い国々の人ともつながっています。それは、私たちが今日住んでいる世界の相互関係を示すと思っています。

以前に比べて、私たちは外国の人との共通点をたくさん持っています。ブロスタは一つの例ですが、スターバックスやテニスやじゃんけんなどを挙げていくと限りがありません。日本の人もアメリカの人もどこの国の人も、みんな人間です。文化がどんなに違っても、ちょっと探してみたら、共通点もたくさん見つけれられるでしょう。

Nature that Natures

Raina Norwood (Higashiomori City Seitoku Junior High School)

Living in Shiga for the past 10 months has been an experience of growth, in many facets of the word. In every instance I've had of being in Japan, the country teaches me something new and wonderful not only about myself, but about the world.

Shiga specifically has taught me about the human existence and sameness we share regardless of origin. I always knew about this truth, but experiencing it first hand, seeing parents show up for their kids, seeing students light up when they finally understand a topic, and seeing families in restaurants just going about their day, evokes a sense of comfort and global connectedness. This connectedness is also present in the integration of nature into Japanese life. Being from Florida, I was not used to seeing mountains, enjoying onsens, visiting ancient structures, and attending seasonal festivals. The inclusion of such activities in one's day-to-day, however, accentuates the effervescent beauty of the small things in life, and appreciation of change.

On a less existential scale, being in Shiga has allowed me to develop my language skills more with the use of Kansai-ben, and grow my independence as I learn to navigate essentially how to be an adult again in a foreign country. All in all, living in Shiga has taught me about myself, and the world around me in a way that I never would have gotten had I never made the leap, and I'm thankful that I got the opportunity to make it.

自然と成長

レイナ ノーウッド（東近江市立聖徳中学校）

10ヶ月間の滋賀での生活を経て、いろんな成長の経験ができました。日本に来るたび、私のことだけでなく、世界について新しいことや素晴らしいことを学んでいます。

滋賀に住む経験が教えてくれたのは、出身に関係ない人間の共通点です。私は以前からこの事実を知っていましたが、実際に両親が生徒をサポートしているところや、生徒がやっとトピックスを理解して興奮しているところや、家族がレストランで食事を楽しんでいるところを見たりすることで、安心感と世界とつながっている感覚になります。このつながりは、日本の生活に自然が溶け込んでいることにも表れています。フロリダ州出身で、山で囲まれていること、温泉を楽しむこと、古代の建物を訪ねることや、季節のお祭りに行くことなど、慣れないところはたくさんありました。しかし、そうした活動を日常生活に取り入れることで、人生における小さな出来事の活気ある美しさや変化への感謝を強く感じるようになりました。

より小さなレベルで言うと、滋賀にいて、関西弁を使って語学力をさらに伸ばすことができ、外国で再び大人になる方法を学びながら自立心も育むことができました。全体として、滋賀県での生活は、私が思い切って移住しなかったら決して得られなかったであろう自分自身と周囲の世界について教えてくれました。その機会を得られたことに感謝しています。



topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

A Second Japan

Rene Vazquez (Higashiomi City Tamazono Junior High School)

When one of the millions of Japanese travelers visits Japan, their motivations usually revolve around a few images; the sky-illuminating city skylights of Tokyo, the traditional time slip into Kyoto's past, and the charming side streets of Osaka where an outwardly rugged but inwardly soft elderly man serves a drink - and with it, Japanese memories that will last a lifetime. These are beautiful in their own right, but most people overlook the majority of the landmass that makes up Japan. Rarely does one make time to visit a station that takes three hours to get to by train from Tokyo station, from a city that already encapsulates more restaurants or entertainment than one could possibly hope to even approach enjoying all of in the span of a few weeks. Very rarely do people come to a station like "Yokaichi" or "Maibara" on their travels. Through the JET program, I have been given an opportunity to explore a second Japan, so to speak, because it is nothing like the Japan that people often think of. This is a Japan of inconvenient trains, but it's also one of star-lit skies, heartwarming hospitality, and unique festivals. Teaching in this second Japan has only added to my appreciation, as every day I find myself making new intimate memories that I couldn't have hoped to create in the bustling city like Tokyo, a place that almost feels less intimate and personal precisely because of how many lives already have a home there; but there's always room in the Countryside. There's always room in this second Japan.



topic:

Japanese Culture

日本の文化について

もうひとつの日本

レネ バスケス(東近江市立玉園中学校)

何百万人もの旅行者が日本を訪れるとき、旅の印象はたいてい決まっています。東京の空を照らす都会の光、過去へとタイムスリップしたような京都の伝統、そして大阪の路地裏で、ぶっきらぼうに見えて実は優しい年配の男性が一杯の酒と共に一生忘れられない日本の思い出をそっと差し出してくれる、そんな情景です。こうした場所は、それぞれに美しさがあります。しかし、多くの人が日本という国土の大部分を見過ごしているのです。東京駅から電車で3時間もかかる駅に足を運ぶ人は、ほとんどいません。東京という街だけで、数えきれないほどの飲食店や娯楽があり、数週間滞在してもそのすべてを味わうことは到底できないでしょう。旅行者が「八日市」や「米原」といった駅に降り立つことは、滅多にありません。私はJETプログラムを通して、そうした「もうひとつの日本」を知る機会を得ました。そこは、人々が思い描く日本とはまったく異なるこの世界。電車の本数は少なくても不便かもしれませんが、その代わりに満天の星空があり、心あたたまるとおもてなしがあり、個性豊かな地域のお祭りがあります。この「もうひとつの日本」で教える日々は、私にとってかけがえのない経験となりました。都会では得られなかった、ささやかで親密な思い出を、毎日のように重ねています。東京のような大都市は、あまりにも多くの人が暮らしているがゆえに、どこかで「自分の居場所」ではないような、距離感を感じることがあります。でも、田舎にはいつだって、居場所があります。この「もうひとつの日本」には、いつだって、誰かの居場所があるのです。

On Making Mistakes

Sarah Lathers (Higashiomi City Koto Junior High School)

I realized immediately upon arriving in Shiga that although my Japanese ability was enough to survive, it was certainly not enough to convey my thoughts or feelings to others in a meaningful way. Tasks that had been simple for me back at home suddenly felt impossible in Japan, and I made more mistakes than I could possibly count – sometimes without even realizing until long after.

However, despite the challenges, this process has taught me some of the most valuable lessons I believe ALTs model for their students: becoming comfortable with making mistakes and recognizing that learning is a journey that requires significant perseverance and courage.

As ALTs, we put ourselves in very vulnerable positions by coming to Japan and learning how to adjust to a new language and culture. By openly trying our best to understand the world around us, and potentially fumbling in the process, we demonstrate that mistakes are a natural part of learning any skill. Furthermore, as non-native Japanese speakers, I think that our continuous effort to forge connections with those around us shows that you don't have to communicate perfectly in any language to be understood. Through my interactions every day with students and coworkers, I've learned that as long as you genuinely try your best, other people will always be able to sense your earnestness to connect with them and your desire to learn. These are traits that will benefit our students throughout their lives regardless of whether or not they choose to continue learning a foreign language in the future. It is incredibly important in any culture to be patient with ourselves and with each other as we learn and grow, and I hope that our students see us and come to understand that they don't have to be perfect to be able to connect with others in valuable ways.



topic:

Teaching English

授業実践について

間違うということ

サラ ラザーズ (東近江市立湖東中学校)

滋賀に到着してすぐに、自分の日本語力は生活するには十分でも、自分の考えや気持ちを相手に意味のある形で伝えるには到底足りないことに気づきました。母国では簡単にできていたことが、日本では突然不可能に思え、数え切れないほどの間違いをしました。時には、ずっと後になってからその間違いに気づくこともありました。しかし、困難にもかかわらず、この経験を通して、ALTが生徒たちに示すべき最も貴重な教訓を学びました。それは、間違いを恐れないこと、そして学習は忍耐と勇気が必要であることを認識することです。

私たちALTは、新しい環境で未知の言語や文化に適応しなければならないという非常に脆弱な立場に置かれています。まわりの世界を理解しようと全力を尽くし、その過程でつまづくこともあるかもしれませんが、それはどんなスキルを学ぶ上でも間違うことは自然なことだということを示しています。さらに、日本語を母国語としない私たちにとって、周りの人々との繋がりを築こうとする努力は、完璧なコミュニケーションでなくても理解してもらえということを示していると思います。生徒や同僚との交流を通して、心から最善を尽くす限り、相手は必ず真摯な態度と学びたいという熱意を感じ取ってくれることを私は学びました。間違いを恐れないことと学びへの真摯さ、それらを踏まえてコミュニケーションをすることは、生徒がこれから外国語を学び続けなくても、生涯にわたって役立つでしょう。どんな文化においても、自分自身に、そして互いに忍耐強く接することは非常に重要です。私たちは学び、成長していきます。生徒たちが私たちを見て、他の人と価値ある形で繋がるためには完璧である必要はないということを理解してくれるよう願っています。

東近江市立湖東中学校 講師 甲斐 健伸 翻訳

Exchanging language, culture, and kindness.

Joseph Timbs (Koka City Tsuchiyama Junior High School)

I had never been outside the States before. In fact, I had never even ridden an airplane before. So, moving to the deep countryside of Shiga, Tsuchiyama to teach has been an incredible adventure for me. Since my arrival, I have taken every opportunity I have had to explore this county's beautiful culture and nature. From the historic Todai-ji Temple in Nara, the wonderful Nachi waterfall in Wakayama, and of course, the gorgeous waves of Lake Biwa. As a Michigander, I am so happy to be a part of the continued legacy of Michigan and Shiga's 57-year-old friendship. However, the most enriching aspect of my experience has been the people of Tsuchiyama and my students. They have been so kind and welcoming to me. Their love and support have encouraged me to make the most of my adventure. I am so fortunate to be surrounded by such caring people and for as long as I am here, I will always do my best to support this wonderful community.



topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

言語、文化そして優しさの交換

ジョセフ ティムス(甲賀市立土山中学校)

私は、以前は、一度もアメリカの外に出たことはありませんでした。実を言うと、飛行機にすら乗ったことがなかったのです。だから、土山という滋賀県の奥の田舎町に引越し、英語を教えるということは、私にとっては、途方もない冒険でした。日本に来てから、私は、この国の美しい文化や自然を知るために、すべての機会を生かしてきました。奈良の歴史あふれる東大寺、和歌山県のすばらしい那智の滝、そしてもちろん、琵琶湖の美しい波。そして、ミシガン出身のものとして、ミシガンと滋賀県の57年も受け継がれている友好関係の一員となれたこともうれしく思います。

しかし、私の経験をもっとも豊かにしているものは、土山の人々と私の生徒たちです。彼らはとても親切で、私のことを心よく迎え入れてくれています。彼らの愛と支援は、私の異国の地での冒険がうまくいくように、後押ししてくれています。こんなにも私のことを気にかけてくれている人達が周りにいてくれていて、私はとても幸せです。そして、私がここにいる限り、私は、この素晴らしい人やをサポートするために、最善を尽くしたいと思っています。

Connecting with 700 students

Deven Mahanti (Koka City Minakuchi Junior High School)

Before ALTs begin teaching in Japan, they often hear about how small Japanese schools can be. It usually goes like “This school only has 60 students split between 3 classes.” A normal sized JHS in Japan has around 100-300 students. But there are over 700 students at Minakuchi JHS this year, and in my first year that number was closer to 800.

This has presented unique challenges. To me, the key to teaching at a large school isn't just making connections, it's making the small efforts to solidify bonds. If I participate in club activities, I show students that I care about their interests in a way that talking about it twice a month in class could never achieve.

Another aspect I think is important is speaking some Japanese outside the class, to show students a few things. First, I'm learning and making mistakes too. Second, the weight of communication isn't entirely on students. When students have to communicate in English with their ALT all the time some of them might improve, but many students will also feel too scared to talk to the ALT. It's important to give students space to speak Japanese, too. Third, if they're struggling in class or outside of it, they feel more confident coming to me.



topic:

Teaching English

授業実践について

700名の生徒との繋がり

デヴェン マハンティ（甲賀市立水口中学校）

私たちALTが日本で教え始める前には、私たちは日本の学校がどれほど小さいかということをよく聞きます。たいていの場合は、「この学校には3つのクラスで分けられた60人の生徒しかいません」という感じです。日本の普通の中学校は約100～300人の生徒がいます。しかし、私の1年目の時には、その数は700人以上でした。各学年に7つずつのクラスがあり、さまざまな生徒と一緒に仕事をすることになりました。

これから提示することは、この中学校で実施している取り組みになります。私にとって、大規模な学校での教育の鍵は、つながりを作ることだけではなく、絆を強化するための小さな努力をすることだと思います。クラブ活動に参加することで、月に2回しかない授業で話すことだけでは決してわからない生徒自身の興味や関心を知ることができます。

私が重要だと思うもう一つは、授業外では少しでも日本語を使って話すことです。それを通じて学生に様々なことを示すことができます。まず、私も学んでおり、間違いがあるということです。次に、コミュニケーションの重みが一方的に学生にのしかかるわけではないということです。学生がALT(外国語指導助手)と英語でコミュニケーションを取らなければならないときに、彼らの中には向上する子もいますが、多くの学生はALTに話しかけることが怖くなってしまいます。だから、学生が私たちALTと日本語を話す機械を与えることで気軽に話せるようにすることが重要です。三つ目には、授業内外で悩んでいることがあれば、私に気軽に相談しやすくなることです。

Sharing my love of Shiga with my family

Kelly Reid (Koka City Shiroyama Junior High School)

Going into another year in Japan and Shiga has been an enlightening experience. Having spent time among the locals, making new friends and seeing the beautiful countryside has been among my favorite things to do.

This spring my parents came to visit, it was my mother's first time in Japan and my father's first time being here in 40 years, suffice to say a lot has changed.

We did some sightseeing around Shiga. We visited Hikone castle, Shigaraki and several shrines. While they were here, we also visited lake Biwa, my parents are Michigan natives, so they are no strangers to large lakes. Also, in Japanese style, we hosted a BBQ while they were here and invited some local friends, it was great to get everyone together.

This year I hope to experience more unique culture and events here in Shiga. It is exciting to see what the future will bring.



topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

家族と見つけた滋賀の魅力

ケリー リード（甲賀市立城山中学校）

滋賀で過ごす日々はとても刺激的な経験になっています。地元の人たちと過ごす時間、新しい友人を作ること、そして美しい田園風景を眺めることは私の楽しみの一つです。

この春、私の両親が日本を訪れました。母は初めての来日、父にとっては40年ぶりの来日となりました。この間に、日本の色々なものが変わったことでしょう。

私たちは滋賀県を観光する中で、彦根城、信楽、そして様々な神社を訪れました。両親の滞在中、琵琶湖にも行きました。両親はミシガン州出身なので、大きな湖には馴染みがあったでしょう。また、地元の友達もよんで日本スタイルのBBQをして、みんなと一緒に素晴らしい時間を過ごせました。

今年は、もっと独特な文化やイベントを滋賀で体験したいです。これから何が起こるのか、とても楽しみです。

What Care Looks Like in Public Spaces

Samantha Quiroz-Gutierrez (Koka City Koka Junior High School)

My ten months in Japan have revealed a society deeply invested in its children. From child-height sinks and mirrors in every bathroom to kid-only subway cars in Osaka, and even underground pedestrian crossings in rural towns, care for children is built into the country's landscape. This commitment extends beyond physical infrastructure. Each morning, I watch neighbors escort local kids to school, their daily presence a reflection of how deeply that same care is woven into the rhythm of daily life.

As a junior high school teacher, I've seen how this culture of care and trust affects the classroom. My once-shy first-year students are now basketball team captains; my 5th graders have become confident 6th grade leaders, running welcome events for new students without teacher direction. When given the responsibility and trust to be a role model for younger peers, students naturally strive to set a good example.

My time in Japan has shown me how a society thrives when it invests in its youngest members. As a teacher, I've become more committed to supporting my students through hallway conversations, after-school English practice, and a constant effort to bridge the language barrier. In my future teaching career, I will carry this mission with me: to create spaces like the ones I've come to know in Japan, where children feel seen, supported, and empowered to grow.



topic:

Japanese Culture

日本の文化について

公共空間におけるケアとは

キロスーグティエレス・サマンサ（甲賀市立甲賀中学校）

私が日本で過ごす時間が増えるにつれて、私は子どもたちに優しいインフラ整備が身の周りになされていることに気がつきました。辺境な田舎にも地下の横断歩道があったり、どんなトイレにも子どもの高さの手洗い場や鏡があったり、大阪の地下鉄では子ども専用車両もあります。毎朝、町の人たちが外に出てきて、田舎の子どもたちが小学校に行くのを案内しています。日本の子どもたちへの配慮はどこに行っても見られるもので、国の風景に物理的に組み込まれていました。

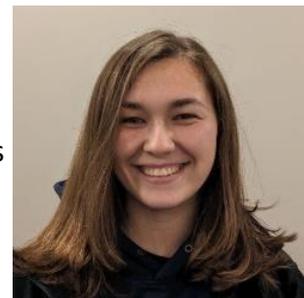
中学校教師として、その立場に身をおくことで、たとえ数か月の短い時間でも、子どもたちに働きかけると、子どもたちがどのように成長するかを目の当たりにすることができました。10か月たつと、かつて自のなかった中学1年生は、バスケットボールの練習をリードする2年生へと成長しました。また小学校5年生から6年生へ成長した生徒は、今では先生の指示がなくても、新1年生の歓迎会を率いることができるようになりました。年下の良い模範となる責任を与えられると、生徒たちは自然とよいお手本を示そうとします。

日本で過ごした時間は、社会が最年少の世代に投資することでいかに繁栄するかを私に教えてくれました。教師として、廊下での会話、放課後の英会話練習、そして言葉の壁を乗り越えるための絶え間ない努力を通して、子どもたちを支えることにより一層力を入れるようになりました。将来の教師生活においても、この使命を心に刻んでいきたいと思います。それは、私が日本で培ってきたような、子どもたちが自分を見守られ、支えられ、成長していく力を与えられていると感じられる空間を作り出すことです。

The Etymology of "W Rizz"

Shelby Keiko Davis (Koka City Konan Junior High School)

When you think of teaching English, you likely imagine the ABC's, grammar lessons, and reading with students. Of course, all of those things are a large part of teaching English. However, my third year on the JET program has given me more to think about when I think about what "teaching" is. Last year, a handful of my students had the opportunity to participate through a yearly exchange program with an American school. I was excited to hear about all the things that they observed and learned in their week at an American middle school. Though, I wasn't prepared for their new fluency in American slang. "W Rizz" began to fill my ears when I walked through the halls of my very countryside Japanese junior high school. I asked my students if they understood what this phrase meant and they said no, so I explained to them that "W" stands for winning, and "rizz" is shortened form of the word charisma. It means that someone has good charisma. I felt proud that I could explain the meaning of something they learned from their peers in America. As an ALT, we have the opportunity not only to help our students with their English grammatically, but we also have the opportunity to broaden their knowledge of English in social situations and give them the tools needed to better understand their peers from abroad.



topic:

Teaching English

授業実践について

「W Rizz」の語源とは

シェルビー ケイコ デイヴィス (甲賀市立甲南中学校)

英語を教えるとは、アルファベットや文法を学習したり、生徒と文章を読むことをイメージするかもしれませんが、それはもちろん英語を教えることの重要な一部ですが、JETプログラムの3年目になり、英語を教えるとはどういうことかについてもっと深く考えるようになりました。教えている生徒の何人かが去年、アメリカとの交流留学のプログラムに参加しました。アメリカの中学校で経験したことや観察できたことを聞くのを楽しみにしていました。すると意外な発見がありました。なんと生徒がスラングを身に付けていたのです。私が勤めている田舎の中学校の廊下で「W rizz」を耳にするのが始まりました。その生徒に「その言葉の意味が分かっていますか」と聞くと、「わからない」と答えました。Wは勝者という意味があり、rizzとは魅力の略語なので、組み合わせて魅力があるという意味になります。生徒にアメリカの仲間同士からの聞いた表現を説明できて誇りに思いました。ALTとは生徒に英語の文法の使い方を教えるのではなく、英語で話す社会的な能力を広げる機会を与えるとともに海外の仲間同士を深く理解するような教材を教えることを役割としています。

Are You Ready?

Sophie Nevel (Koka City Shigaraki Junior High School)

Every day for the last three and a half years, I have been teaching English at three schools. Every day before class starts, before a new game or activity, before a challenge, I ask my students, “Are you ready?” Every day, whether they truly feel ready or not, they enthusiastically reply, “Yes!” For this reason and many more, I feel inspired by my students. While learning another language, we can expect to make many mistakes, and that is O.K. Mistakes are natural and helpful! Sometimes, though, making many mistakes can feel disheartening. It can cause us to lose confidence and motivation. This can make it difficult to move forward. However, something I have noticed recently in many of my students is the willingness to try, even if it is hard, even if mistakes will happen, even if they don’t know all the answers. I think that to grow and learn and become better, it is important to always remain willing to try. None of us can give everything 100% of our power all the time, but what matters is that we show up and do what we can. Some days, our “best” may be 80%, and some days, it may be 30%. Even 30% is better than 0%. I feel so inspired when I see my students trying their best to learn English, working together and helping each other, even when they are unsure. They are so brave and so bright. Every day, whether I truly feel ready or not, I ask my students, “Are you ready?” and they motivate me to say, “Yes!” too.



topic:

Teaching English

授業実践について

準備はできましたか？

ソフィー・ネベル（甲賀市立信楽中学校）

この3年半の間、私は3つの学校で英語を教えてきました。毎日、授業が始まる前、新しいゲームや活動、チャレンジの前に、私は生徒たちに「準備はできましたか。」と聞きます。毎日、本当に準備ができているかどうかに関わらず、彼らは元気に「はい！」と返事をします。このことや他のたくさんの理由により、私は生徒たちにいつも刺激を受けています。他の言語を学ぶとき、たくさん間違えるのは当たり前だから、間違えても大丈夫です。間違えるのは自然なことで役に立ちます！しかし、時々たくさん間違えてしまうのがっかりします。自信ややる気を失うこともあります。それが原因で前に進むことが難しくなることもあります。ですが、最近、たとえ難しくても、間違えても、全ての答えが分からなくても、生徒たちの多くが挑戦する意欲を持っていることに気づきました。私は、成長して、学んで、より良くなるためには常に挑戦する意欲を持つことが大切だと思います。誰もが常に100%の力を発揮できるわけではありませんが、大事なのは挑戦しようとする、そしてできることをすることです。私たちの「ベスト」は80%の日もあれば、30%の日もあるかもしれません。でも、たとえ30%でも、0%よりはずっといいのです。私は、生徒たちがたとえ自信がなくても、一緒に助け合いながら努力して、英語を一生懸命学ぼうとしている姿を見て、とても感動しています。彼らはとても勇敢で輝いています。毎日、私は本当に準備ができているかどうかに関わらず、「準備はできましたか。」と生徒たちに聞きます。そして彼らが、私にも「はい！」と言わせてくれるのです。

How I Learned to Love Kanji

, (Sakata Elementary School)

The initial reaction of most any Japanese beginner is that it would be much easier if there were no kanji. The grammar's hard enough as it is! And how am I supposed to read the name 光宙?

When I arrived here not even nine months ago, my Japanese left a lot to be desired. Yet I can name a hundred examples since then where a word was revealed to me through kanji alone – sometimes a single radical.

Yesterday I read 無色 for the first time and figured it meant colorless, but the meaning wouldn't have dawned on me had I read むしょく. I learned the word for astronomer - 天文学者 – when a student showed me her paper while asking for the English translation.

That's not to say it's easy or anything – a large part of one's schooling here is dedicated to kanji. Many learners consider kanji the bane of their existence, and even a few of my students have said they don't like them! Nonetheless, a moment I'll always remember is one of my professors reading from the Tale of Genji, in the original, in real time. Just like me, he started studying Japanese from scratch as an adult, and now he has without a doubt mastered Japanese, and is at a level I one day hope to be.

topic:

Japanese Culture

日本の文化について

私は如何にして漢字を愛するようになったか

(米原市立坂田小学校)

ほとんどの日本語初心者は、漢字がなければもっと簡単なのに、と最初に思うだろう。文法は今のままでも十分難しい！それに「光宙」なんてどうやって読めばいいんだ？

ここに来てまだ九カ月も経っていない頃、私の日本語はまだまだだった。しかし、それ以来、漢字だけで、時には部首ひとつで単語の意味がわかった例を百は挙げられる。昨日、私は初めて「無色」を読んで「カラーレス」という意味だと思ったが、もし私が「むしょく」を読んでいたら、理解できなかっただろう。児童が学習用プリントを見せ「天文学者」の英訳を尋ねてきた時、漢字を見てすぐにそれが「アストロノマー」であることが分かった。

この国の学校教育の大部分は漢字に費やされている。多くの学習者は漢字を悩みの種と考えているし、私の児童の中にも漢字が嫌いだと言う者が何人かいる！それでも私が忘れられないのは、ある教授が源氏物語を原文のままリアルタイムで読んだことだ。教授は、私と同じように、大人になってからゼロから日本語の勉強を始めた彼は、今では間違いなく日本語をマスターし、私がいつかそうなりたいと思うレベルに達している。

Planting Words, Growing Wings

, (Ohara Elementary School)

Spring breezes stir the plum trees by the gate,
New shoes, new names, shy voices becoming great.
We trace the alphabet with careful hands,
Like planting seeds across fertile lands.

Summer hums, and cicada song fills the day,
Students' questions bloom as they slowly find their way.
Laughter spills where once there was a pause,
Each spoken word shaped with pride and small applause.

Autumn paints the mountains red and gold,
With each class, they become steady and bold.
They learn to write beneath October skies,
With softer errors and braver, clearer eyes.

Winter wraps the school in soft, white snow
They thank me as they turn to go
Through the halls, their voices start to sing
Proof that foreign words can help them find their wings.

topic:

Teaching English

授業実践について

言葉をまいて、翼を育てる

(大原小学校)

春風が門の梅を揺らし、
新しい靴、新しい名前、内気な声が力強くなる。
丁寧にアルファベットをなぞる手、
それは広い大地に種をまくよう。

夏が鳴き、蝉の歌が日を包む。
少しずつ道を見つける児童の問いが咲く。
沈黙のあとに笑い声がこぼれ、
話す一言ごとに小さな拍手と誇りが灯る。

秋が山を赤と金に染め、
授業ごとに勇気が増していく。
十月の空の下で書くことを学び、
間違いが少なくなり、目は自信に満ちていく。

冬は学校を柔らかな雪で包み、
「ありがとう」と言って彼らは帰り道へ。
廊下に歌うような声が響き、
異国の言葉が翼になることを教えてくれる。

Connect with the Community

Kaleb Thompson, (Daito Junior High School)

This year, I've tried to focus more on connecting with my local community in Shiga and making the most of my time outside the classroom. One highlight was spending more time with friends—whether it was sharing meals, exploring new places, or simply chatting, these moments helped me feel more at home. I also made an effort to get involved in community events and local festivals, which gave me a deeper appreciation for the culture and warm hospitality of the people in Shiga.

A memorable experience was completing “Biwa Ichi,” the cycling trip around Lake Biwa. The journey was challenging at times, but incredibly rewarding. I was constantly surrounded by stunning scenery—peaceful rice fields, historic temples, and the sparkling water of the lake. The kindness of the locals I met along the way made the trip even more special. It reminded me how rich and beautiful everyday life in Shiga can be. I would highly recommend Biwa Ichi to anyone living here—it's a great way to experience the natural beauty of the area and feel connected to the local culture.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

コミュニティとつながる

ケイリブ・トンプソン（米原市立大東中学校）

今年は、滋賀での地域とのつながりや、学校の外での時間を大切にすることに力を入れました。友人と過ごす時間が増えたことが大きな喜びでした。一緒に食事をしたり、新しい場所を探索したり、ただ会話するだけでも、滋賀での生活がより身近に感じられるようになりました。また、地域のイベントやお祭りにも積極的に参加し、滋賀の文化や人々の温かさをより深く知ることができました。

特に印象に残っているのは、「ビワイチ(琵琶湖一周サイクリング)」に挑戦したことです。時には大変でしたが、それ以上に達成感がありました。道中では、美しい水田や歴史あるお寺、そしてきらめく琵琶湖の景色に心を打たれました。途中で出会った地元の方々の親切さも、この旅を特別なものにしてくれました。滋賀の自然や暮らしの魅力を改めて感じることができ、とても貴重な経験でした。滋賀に住んでいる方には、ぜひ一度ビワイチを体験してほしいです。かけがいのない思い出になると思います。

Learning to teach English 3 times.

, (Maibara Elementary School)

My time teaching in Japan has been a truly exceptional one. This is currently my second year with the JET program but I have taught at 6 different schools. When I arrived in Japan, I was placed at 2 elementaries, I was very excited about this. I slowly became accustomed to teaching English in these schools, I had never taught before so there was a lot to learn. Thankfully my JTE was great and we worked well together. I was excited to grow together as a team. Then after a single year I was switched to Junior high. Learning to teach English at this level was a struggle, I hadn't fully learned about elementary and was now having to learn everything all over again. I had many difficulties adjusting to the new environment. I did my best to adjust to the new level of English and was slowly figuring it out, then after 6 months I was placed in new schools. I was switched to 2 new elementaries and was thrown back into what I hadn't fully learned before. My new JTE is great and I love working with her, I hope I will be able to build relationships with the students and teachers in these new schools, and of course teach them English.

Topic:

Teaching English

授業実践について

英語教育3回目

米原小学校

日本での教師生活は本当に素晴らしいものでした。現在、JETプログラムに参加して2年目ですが、これまで6つの学校で教えてきました。日本に着いたとき、2つの小学校に配属されました。このような学校で英語を教えるのは初めてだったので、学ぶことがたくさんありました。ありがたいことに、私のJTEは素晴らしく、私たちはうまく協力し合えた。チームとして互いに成長できることにわくわくしていました。そして1年後、私は中学生に転校した。このレベルで英語を教えることを学ぶのは大変なことで、小学校のことを十分に学んでいなかった私は、すべてを学び直さなければならなくなりました。新しい環境に適応するのは大変でした。新しい英語レベルに適応するためにベストを尽くし、少しずつ理解できるようになった頃、またしても新しい学校に配属された。私は2つの新しい小学校に転校し、それまで完全に学んでいなかったことに再び放り込まれました。新しいJTEは素晴らしく、彼女と働くのが大好きです。新しい学校で生徒や先生と関係を築き、もちろん英語を教えることができればと思っています。

Growing Together Through Change

Laura Steavenson (Maibara City Junior High School)

My second year on the JET Programme has been full of growth and change. I began at two elementary schools and am ending as a junior high school ALT. Moving schools was a challenge, but it also allowed me to transition with the sixth graders I had been teaching. This continuity helped strengthen our relationships and made the adjustment easier for both sides.

In junior high school, I've seen my students rise to new academic expectations while still finding joy in learning. Striking a balance between challenging material and the comfort of familiar games and activities has been key to maintaining their sense of wonder in English class. These moments of laughter and connection remind me that learning thrives when students feel both supported and inspired.

Through this experience, I've come to appreciate the care, consistency, and connection that define education in Japan. I've learned that trust and relationships are just as essential as the content we teach—and that creating space for joy is just as important as pushing toward growth



topic:

Teaching English

授業実践について

変化の中で共に育つ

ローラ・スティヴェンソン(米原中学校)

JETプログラム2年目は、成長と変化に満ちた一年でした。最初は2つの小学校で勤務していましたが、現在は中学校のALTとして活動しています。学校の人事異動は大きな変化でしたが、小学校の6年生と中学校で再会できたことで、生徒とのつながりをさらに深めることができました。この関係の継続があったからこそ、私も生徒も新しい環境への適応がスムーズに進んだと感じています。

中学校では、生徒たちがより高い学習のハードルに向き合いながらも、学ぶ楽しさを失わずにいる姿を目にすることができました。難しい学習に挑戦する一方で、慣れ親しんだゲームやアクティビティを取り入れることで、英語の授業に対するワクワク感や安心感を保つことができたと思います。笑顔や笑いがあふれる小学校での学びの時間が、彼らの学びの土台を支えているのだと実感しています。

この経験を通じて、日本の教育における思いやり、一貫性、そして人とのつながりの大切さを改めて感じました。信頼関係は、教える内容と同じくらい重要であり、成長を促すだけでなく、喜びを育む場をつくることもまた教育の本質だと学びました。